

コミュニケーションが苦手な 子どもたちへの理解と支援

〈学齢期から思春期にかけての
発達しようがいの子どもたち〉

サポート部門「とんがらし」代表 中村 淑子

サポート部門「とんがらし」が1997年7月に活動を開始してから13年もの月日が経ちました。その頃、出会った子どもたちの中には、もう高校を卒業し、社会人になっている子どももいます。

2002年頃、グループ保育の子どもたちの中に、「ちよつと気になるなあ、おもちゃは投げ放題、走り回る、お友だちとおもちゃの激しい取り合い、目が合わない:」などを感じる子どもがいました。視覚障害や聴覚障害、自閉症、知的障害の子どもと出会っていました。LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群など、軽度の発達障害についてはあまりよくわかりませんでした。そこで、とんがらしワーカー(保育者)のスキルアップを兼ねて「障

害児等へのサポーター養成講座」を企画し実施するに至りました。

この講座ではサポーター養成というより、保護者の方の参加が多く、みなさんの情報を集めたいという気持ちがかかなり強かったように思います。実施後、ワーカーから「今までなら、走り回ったり、目が合わなかったら保育中もイライラしていたけど、落ち着いて子どもを受け止められるようになって、ゆったりかかわることができた。そうしたら、子どもも落ち着いてみたい。」という声がありました。その後2005年の養成講座でも軽度発達障害の講座を企画しました。その講座の中で「軽度発達障害のことが医学生生の教科書に載ったのはほんの10年ほど前から、ということ、現医

師にも理解していない方がいます。」との話に納得したのを覚えています。あれから5年、今はかなり認知され、本も多く出版されているし、また、理解もされつつあります。それでも、その子どもたちへのサポートにはかなりのスキルとエネルギーの必要性を感じています。

2004年、発達障害のお子さんのお母さんから「とにかく毎日大変なので自宅に遊びに来て欲しい」という電話が入りました。市から紹介され、「とんがらし」のパンフレットを見て電話をかけてこられたようでした。今までにも障害のあるお子さんのサポートはしていたのですが、自分たちに何が出来るかを考え、「専門家ではないですが、一緒に考えてサポートさせていただきますね」と返事し、ワーカー2名が打合せに行きました。今でもそのサポートは続いています。

「障害があるのですが、預かっていただけますか?料金は高くなりますか?」の問合せがあります。「障害の有無でお断りをすることはありません」と答えると、

喜ばれました。ということは、断られるということがあるということ、そんな社会状況をかえたいと思います!

今年、財団法人子ども未来財団「子育て支援者向け研修事業へ小規模研修会」として、「コミュニケーションが苦手な子どもたちへの理解と支援」学齢期から思春期にかけての発達しようがいの子どもたち」3日間5講座を開催します。

大切なのは、子どもたち一人ひとりが違うことを理解すること。向き合うこと。違いについて知り、学び、考え、子どもの今を支援できるサポーターが増えることを願っています。

4頁に第2期修了生の声を載せていますが、SEANでは子どもの育ちのなかの人權を保障するために、ジェンダーの視点・大人の責任を学ぶオリジナルプログラム「GCR@SEAN 認定講座」も年2回開催(2011年3月予定)しています。修了生には認定証が発行されます。関心のある方は是非受講ください。